

# SANS FRONTIÈRES

## vol.27

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

## はじめに

平成30年度の医歯薬コースは3年生31名、2年生37名、1年生59名の計127名で構成されています。

新年度最初に、この医歯薬通信の名前についてお話しします。フランス語で「Sans Frontière」。「sans」は「～無しに」、「frontière」は「境界」という意味で、「Médecins Sans Frontières(国境なき医師団)」に因んで付けられた名前です。「境界無しに」という医歯薬通信の名前は医療人としての心構えを表しています。

考えてみると、人と人を隔てるものは国境以外にもたくさんあるように思います。様々な差別が問題になっているのは、皆さんもご存じでしょう。「いじめ」やSNSでのトラブルなども、他者との間に精神的な隔たりを作り、自分と同質の存在以外を攻撃・排除しようとするのが原因ではないでしょうか。医療を必要とする人々の多くは、痛みや苦しみに悩んでいます。そういう方々に医療人としてどう接したらいいのでしょうか。いえ、医療に限らず、苦しんでいる人に対して我々はどう接するべきなのでしょう。

「Sans Frontière」。水戸葵陵高校医歯薬コースで、学習だけではなく、人としての心も学んでほしいと考えています。

## 平成29年度進学状況

平成29年度の医歯薬コースの卒業生は64名。延べ人数で国公立大学29名、医療系学部60名の合格を果たしました。自分の志望をしっかりと持ち、努力を続け、国公立後期試験までしっかり取り組んだ結果です。今年の入試は、大学入試改革を前に、センター試験の出題傾向や形式も少しずつ変わり、国公立大私大ともに英語重視の傾向がはっきりしていました。表面的な形式にとらわれず、きちんとした基礎力を持ち、落ち着いて試験に取り組む力が必要です。

## 第2回医師講演会

今回は『医師はどうやって病気を診断するのか?』という演題で2月1日、筑波大学の前野哲博先生に講演していただきました。

部位+病因で病気を絞り込むことや、横軸を時間、縦軸を発症様式で表したグラフを用いて病気を判断できることなどを学びました。血管病変は短時間での発症であり緊急事態ですが、偏頭痛などの可逆性変化では「発症←→治る」を繰り返し急を要することはないそうです。

医師と患者の会話から病気を判断するグループワークも行いました。全体を100%として4つの病気がそれぞれ何%かを考えるものです。2グループほど発表しましたが、診断の確定の根拠がとてもしっかりしていて驚きました。

今回の講演会は、講義とグループワークを織り交ぜた内容となり、とても有意義な講演会となりました。(新3年)

## 総合学習発表会(1年生発表)

医歯薬コースの総合学習はグループ毎に医療に関するテーマを決めて発表します。私の班は「子どもの病気」について発表しました。インターネットを使って調べたり、医師に直接話を聞きに行ったりして情報を集めました。発表では質疑応答で、答えることが難しい質問もありましたが、後ほど調べてより知識を広げられ、充実した発表会になりました。

高1での総合学習を終えて1つ思ったことがあります。医療系の大学に進む上でかなりの学力を必要とします。しかし、医療系大学に進む多くの方々は大学よりも先を見据えています。総合学習で職業に就いたときに使う知識を蓄えられたことは貴重だと思います。

葵陵に入学したことで勉強と医療に関する知識を同時に身につける機会を得ることができました。二年生でも継続研究できるので、楽しみです。(新2年1組)

先輩に向けての発表だったので緊張してしまい自分で書いた文字を読むことができず、失敗してしまうという場面がありました。しかし将来、公の場で発表する時の役に立つ良い経験になったと思います。また他のグループの中で「肺がん・大腸がん」について発表したグループがあり、そのグループの発表はグラフなど利用していて分かりやすかったので、次の発表で良かった点を取り入れるなど工夫していきたいと思いました。(新2年2組)

## 千葉科学大・出張模擬授業

3月8日(木)に千葉科学大学の出張模擬授業が行われました。講義は「薬の魔法使い、薬の錬金術師、になりませんか?」「がん細胞の話」「心が病むって特別なこと?」の3テーマです。

対象の生徒は1,2年生で3テーマ中2テーマ選べるようになっています。

生徒からは「太らないためには早食いは絶対にダメだという理由がわかりました。」「がん、はひらがなで「がん」と書くのと、漢字で「癌」と書くことの意味の違いがわかりました。」「心の健康はいろいろなものに影響を受けており、内的環境と外的環境が深く関わっている。今になって、小学生のときに「規則正しい生活をしなさい」と言われたことがよくわかります。」(新3年)などのたくさんの感想があげられました。

今回は、薬学部・危機管理学部・看護学部から1テーマずつお話しをいただけたので、1年生にとっては進路選択に向けて良い機会になったと思います。

## 救急救命講習会

3月26日、27日に救急救命講習会が行われました。

救急救命講習では、人工呼吸や心臓マッサージなど、もしも自分の目の前にいた人が倒れたときに行う応急処置の仕方などを教わりました。ドラマで医師が心臓マッサージなどを行っているシーンを何回か見たことがあります。実際やってみると、とても大変な作業だと感じました。

講習を受けたことで、患者さんの命を救うため、懸命に取り組む医師や看護師さんは改めて素晴らしい仕事であると実感しました。私は幸運なことに、これまで目の前の人が急に倒れ、命が危ういという状況に出会ったことはありません。しかし、将来、そのような状況に出会ってしまったとき、この講習で学んだことを活かし、人の命を救える大人になりたいと思います。救急救命講習は本当にためになり、参加して本当に良かったです。(新2年1組)

救急救命講習ではAEDの使い方、人工呼吸のやり方や救命の手順についてとても丁寧に分かりやすく教えていただきました。また、救命処置を受けていれば助かったかもしれない娘さんの母親のメッセージビデオを見ました。そこで私は人の命を救うことの大切さ、人の命の重さを知り、人の命を助ける仕事に就きたいと自分の将来について考えることができる良い機会になりました。(新2年2組)

## 北茨城地域医療見学

私は、3月28日地域医療の見学に北茨城市民病院附属家庭医療センターに行きました。

まず外来の見学で、患者さんとのコミュニケーション実習をしました。多種多様な患者さんが来院されていて、簡単には話が続きません。先生を見ていると、それぞれの患者さんに合った話し方や接し方で診察していました。医療従事者として働く際には、専門的な知識を備えるだけでなく、個人の特性に合わせてコミュニケーションをとることが大切であると実感しました。

次に薬局へ行きました。薬局では現職の方が薬剤師の職種や業務内容について説明してくれました。実際に調剤室に入ると、棚にずらりと並ぶ薬の多さに驚かされました。ひとつひとつ効果が違うものを覚えるのは、根気と綿密さが必要だと感じました。

この見学では普段見られないような病院や薬局の裏側を見ることができました。この有意義な経験から将来薬剤師になりたいという意志がますます高まりました。(新3年)

## 推薦図書

「理科系の読書術」 鎌田浩毅 中公新書



皆さんの中にも「読書は苦手」という方がいるのではないのでしょうか。しかし、読書といっても対象や目的は様々です。高校では「小説などを鑑賞する」だけでなく、「論理的な文章から情報を得て、自分の考えを発展させる」ことが求められます。大学で学ぶ専門的な知識を、平易に解説した本もたくさんあります。本書には、「途中で読むのをやめてもいい」「15分だけ集中して読む」などの項目があります。「それならできそう」と思いませんか？

同じテーマでもう一冊。

「読書の価値」 森博嗣 NHK出版

こちらは、前掲書とは違う意見が書かれています。同じテーマで複数の本を読むと、多様な考え方を知ることができます。

今年度から、1階ホールに学習スペースを整えるとともに、本も多数置くことになりました。どうぞ利用してください。

